

国際交流の現状と

今後の取組は？

(無会派)

問

現在、我が国においては、尖閣諸島問題、北方領土問題など、深刻な問題が山積しており、これまでの民間や行政レベルでの国際交流事業の有効性を考える必要があるが、友好都市である中国保定市との民間団体による交流や中国語講座の開設など、市内における国際交流事業の状況を問う。

また、今後、本市はどのように国際交流を展開していこうと考えているのか。

答

国際交流事業については、保定市を友好訪問する団体に対し、交流の促進を図るため、平成7年度から友好都市市民交流補助金を交付しており、現在までに補助金を利用して162名が保定市を訪問している。現在、保定市とは経済、教育、医療など各分野における交流を深めているが、特に済生会西条病院と保定市第一中心医院は、本市と保定市の友好締結に先駆け、平成3年に友好交流議定書に調

印し、継続した交流を行っている。

また、平成22年度は、産業文化フェスティバルと産業祭においてアメリカの食文化の紹介、ギリシャ、ブルガリアの国際理解講座の開催及び青年海外協力隊パネル展を行っている。

さらに、語学講座については、現在、中国語講座、韓国語講座、英会話講座、日本語教師養成講座を開催している。

今後の国際交流の展開については、今後の日中関係の情勢を踏まえて保定市への代表団の派遣を検討したいと考えている。保定市とは、観光客の誘致や市場産品の販路拡大もテーマと考へ、調査検討を進めながら一層の交流を図られるよう取り組み、本市の地域資源を活用した戦略的な国際交流を促進していきたい。

農業振興策に対する

市の取組・支援状況は？

(無会派)

問

若者の雇用状況が厳しい中、農業の経営基盤を強化し、農業における生産性の向

上、効率化等に対して支援を行うことは行政としての責務だと考えるが、その支援の状況と農業後継者・担い手育成のための取組について問う。

また、疲弊していると言われる農業に対し、収益リスクの分散や農地の保全・販売力の強化等、農業の基礎体力の向上を目指した大規模な農業企業体の形成への支援についての考えを問う。

答

農業の生産性向上対策については、生産基盤であるほ場整備をはじめとするハード整備に合わせ、整備後の土地利用計画などハード、ソフト両面からの対策が必要であると考へている。

ソフト面の対策は、農地の集約による経営の効率化や生産コストの低減、作業効率の向上を見込み、農地集積や担い手に対する助成、また、集落営農組織の設立や育成に対する助成を行っている。

また、後継者育成対策については、新規就農者を含めた農業後継者の育成・確保が重要な課題であると認識しており、新たに就農するための初期投資の問

題、農地・住居の問題、農業技術の習得などの課題を解消し、これらの就農相談に対応するため、平成20年度より県・市・JANAなど関係機関が一体となり、「ワンストップ窓口」を設置し、農地情報の提供、制度資金、農業技術検証事業、機械や施設に対する補助の紹介など総合的な営農相談を実施している。

さらに、農業企業体形成への支援に対して、これまで認定農業者や集落営農の組織化・法人化を支援してきており、認定農業者数は県下で4位、そのうちの法人組織数は1位となっている。



市役所内に設置されている支援窓口

今後も持続的な農業発展のため、適切な支援を行い、地域の特性を生かした高い生産性と収益を有する農業経営の確立を図っていきたい。

請願

12月定例会における請願の審議状況は次のとおりです。

【採択】

- ・子宮頸がん予防ワクチン接種費用の全額公費助成等を求める請願を採択

【不採択】

- ・最低保障年金制度創設を求める意見書提出の請願
- ・後期高齢者医療制度の廃止に関する意見書の提出を求める請願

【継続審査】

- ・最低賃金法の抜本改正と安定雇用の創出、中小企業支援策の拡充・強化を求める請願
- ・内需を拡大して安定した雇用の創出を求める請願
- ・大幅増員と夜勤改善で安全・安心の医療・介護を求める請願